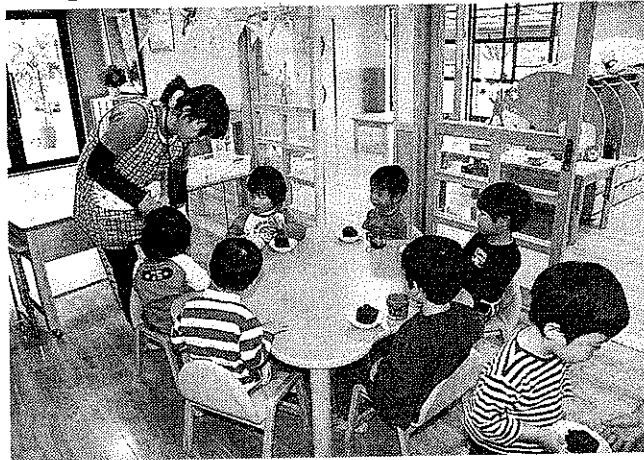


30人が通う、佐賀大学医学部のキャンパス内にある「こどもの杜保育園」



佐大フスケツチ

お昼寝から覚めた子どもたちが手作りのケーキを食べている。保育士さんの腕の中でミルクを飲んでいる赤ちゃんもいる。ここは佐賀大学医学部のキャンパス内にある「こどもの杜保育園」。佐賀市の認可保育園として四月にオープンした。乳児から就学前までの三十人がこで保育を受けている。子どもたちの母親の多くは医学部付属病院で働く看護師さんたち。付属病院の看護部のホーム

ページには「永年の希望であった保育園が開設した」と写真付きで紹介されている。また、看護部の五つの基本方針の中には「働きやすい職場風土を創造する」とある。仕事をしながら子育てをする看護師にとって、朝の忙しい時間に職場と同じ敷地にある保育園に子どもを預けることができることは「働きやすい」ことにつ

子育て支援 医学部に認可保育園

ながるだろう。

一歳四カ月の子どもを預けている看護師の西村加代子さんは「上の子ども二人は病院から十分離れた保育所に預けた。この十分の差は大きい」と話してくれた。こどもの杜保育園は県内で二番目に、午後六時から十時までの夜間保育も実施する。西村さんは「いずれ夕方からの病棟会議時などに、このサービスを受けたい」とも言っている。そして今後も看護師の仕事を続けていくと語ってくれた。

子育てをする時、多様なサービスの選択肢があることは安心して子どもを産むことができる社会である。この保育園を利用しているのは働く人だけではない。佐賀大学で学ぶ女子学生や留学生もいる。わが国では子育ての多くは女性の肩に担わされている。

「性別に関係なく子育てなどの家庭生活とその他の活動の両立」をうたった男女共同参画社会基本法が施行されて九年が経とうとしている。子育てをしながら働いている男女の「永年の希望」の一つがようやく実現した。

(佐賀大学理事・北島悦子)
※次回は五月二十七日の予定です。